

第 2 回まちづくり推進検討委員会 — 議 事 録 —

日時：平成 23 年 2 月 8 日(火)

15：00～16：45

場所：大月市民会館 4 階

視聴覚室

1. 開会

【事務局】

- ・ 本日はご苦勞様です。定刻を過ぎましたので、これから平成 22 年度第 2 回まちづくり推進検討委員会を始めさせていただきます。
- ・ まず、はじめに、西井委員長より挨拶をいただきたいと思う。
- ・ 宜しく願いいたします。

2. あいさつ

【委員長】

- ・ 委員長の西井でございます。
- ・ 年度末の忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。
- ・ 本日は第 2 回のまちづくり推進検討委員会という事で、議事次第にあるように来年度実施予定の社会実験の実施計画案、5 事業について伺い、事実上は今回の実施計画案を承認していただいた事に基づいて、来年度早々いろんな事業の取り組みのための準備作業を進めていきたいと考えている。
- ・ そういう意味で、22 年度と 23 年度の 2 年度を跨ぐが、社会実験の実施計画案についてご検討のほど、宜しく願いしたい。

【事務局】

- ・ ありがとうございます。
- ・ それでは、議事に入る前にまちづくり推進検討委員会の委員が変わっているので紹介する。
- ・ 本日は欠席だが、大月青年会議所の理事長 土屋和也様が変わっている。
- ・ 続いて、お手元の資料の確認をお願いしたい。
(資料の確認)
- ・ 続いて、議事に入らせていただく。
- ・ 議事の進行については西井委員長をお願いをしたい。
- ・ 宜しく願いします。

3. 議事

【委員長】

- ・ それでは早速だが、議事に入らせていただく。

- ・ まずは「(1)報告事項」、第1回の検討委員会の議事録ということで「資料1」がお手元に配布されているかと思うが、これについて簡単に紹介をお願いしたい。

【事務局】

- ・ では、第1回の検討委員会の議事録について事務局から簡単に説明する。
- ・ この議事録については、既に開催通知と一緒に配布しているので、目を通されているかと思う。
- ・ ページ数が多いため、概要だけ説明する。
- ・ まず、第1回のまちづくり推進検討委員会では、冒頭に市長の挨拶があり、その後に正副委員長の選任。その後、議事という流れになっていた。
- ・ 平成21年度の検討委員会で、駅前を中心とした賑わいづくりとして5事業、商店街を中心とした賑わいづくりとして6事業、事業案が提案されていたが、これを検討委員会の下に作業部会を設け、駅前を中心とした賑わいづくりとして2事業、商店街を中心とした賑わいづくりとして3事業に絞り込んだ。
- ・ 絞り込んだ事業について比較表を作成し、これを第1回のまちづくり推進検討委員会で協議をしていただいた。
- ・ 企画書に関しては基本的に承認いただき、この企画書に第1回のまちづくり推進検討委員会が出た内容・意見を反映させて、実施計画書案作成し、本日第2回の検討委員会にこの実施計画書案を提案するということまでが、第1回のまちづくり推進検討委員会の議事録の内容である。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 「資料1」ではそれぞれの部から部会長の細かな報告があり、その後の意見交換の記録がついている。
- ・ 本日は第1回の検討委員会の意見等に基づいて出てきている、A部会2事業、B部会3事業についての実施計画案を議論していただきたい。
- ・ 報告事項の議事録についてはよろしいか。
- ・ 後でお気づきの点があったら事務局にご指摘いただければと思う。
- ・ それでは、今日は5事業の実施計画案を議論していただきたいので、少し時間をとりたいと思う。
- ・ 早速、協議事項に入らせていただきたい。
- ・ 社会実験の実施計画案という事で、「資料2」でそれぞれホチキス留めしている資料が5部あるので、確認をお願いしたい。
- ・ 事務局の方から、まず「資料2」の内のA部会から出ている2事業についての実施計画案の説明をしていただき、それについてのご意見を頂戴し、つづけてB部会から出ている3事業についての実施計画案の説明とご意見を頂戴するという形で進めていきたい。
- ・ それでは事務局の方から「資料2-A-1」と「資料2-A-2」の説明を宜しく願いしたい。

【事務局】

- それでは、「資料 2-A-1」と「資料 2-A-2」をつづけて説明させていただく。
- まず、「資料 2-A-1」大月市賑わいづくり社会実験実施計画書案という事で、駅前を中心とした賑わいづくりが、A-1 の「駅前夕市事業」である。

(資料 2-A-1 説明)

- 「事業の目的」については、企画書の段階に比べて、「グルメフェア」という言葉を追加した事、(リスト)一番下の行にある「人が留まる仕掛け」を追加してある。
- それから、企画書段階では2つの文章になっていたが、1つの文章にまとめてある。
- 「事業責任者」については、以前は「主体」となっていた部分を「事業責任者」という名称に改めている。
- また、「期間」の中の「時間」を追加し、「実施場所」も追加をした。
- それから、「事業の意義」だが、これは以前にはなかった文章を追加してある。
- 大月駅前には現在完成を目指して整備中であり、本事業は完成後における駅前広場の賑わいを創出する手段として実施する事業であり、当該事業を実施する意義は高い。
- つづいて、「準備作業の概要」も追加した。
- 1番として、事業の確認という事で、実施する事業内容、経費の仕分け、日時、参加の条件、用具の準備等の確認と作業担当者を決定する。
- 2番として、食協を通じて飲食店への協力依頼をする。グルメフェアは今回初めて実施する事業のため、食協を経由し、地域の飲食店への協力依頼を行い、参加店を確定してゆく。参加店の割引チケットの作成。
- 3番の「交通対策」として、駅前広場の歩道及び一部車道部を利用する可能性があるために、使用するエリアを検討し、事前に交通管理者・道路管理者との協議、申請を行う。開催日のある時間帯における道路占有とそれに伴う通行規制措置を実施する。
- それから、「駐車場対策」として、参加者規模を確認の上で、来場者や参加者のための駐車場確保を検討する。
- 5番、「参加者の募集および説明会」。夕市に参加する事業者や市民への参加募集を行う。今回はこれまでの野菜の販売等に加え、周辺飲食店からの加工食品の販売も行う予定である。
- それから、「事業の実施計画」。参加者を対象に予定地での大まかな配店計画を決定する。この案に基づき当日の配店を行う。農産物展示台、椅子、テーブル、のぼり旗等の手配を行う。
- 7番の「広報活動」。事業の実施をいかにして知らせるかが事業の成功を左右すると言っても差し支えないほど広報活動は重要である。広報の道具として市広報や市・観光協会のHPを活用するため、事前に周知内容を示した原稿を作成する。マップに掲載する情報の収集範囲や内容の検討を行う。「A-2」、「B-1」、「B-2」事業との連携調整を図り、情報の共有化も合わせて行う。
- 8番「アンケート調査」。アンケート調査を実施するための要員の確保と、調査実施時の留意事項等の説明を行う。
- 「達成目標」については、基本的には変わっていないが、ここに関しては「夕市」ということだけ見ている。

- ・ それから、「作成資料」という事で、夕市出店要領、配店計画図、街歩きマップ原稿、広報用原稿、割引チケット原稿を追加した。
- ・ 「工程表」については、まず一番上の「実施の時期」だが、実施の時期を8月～10月としてある。
- ・ そうなると、交通規制の申請等については4月頃には申請する必要がある。
- ・ 内容の検討としては7月に最終調整をしようとする、3月頃から内容の検討に入るべきだと思う。
- ・ また、参加者の募集についても3月頃から「夕市」「グルメフェア」とともに参加者の募集をするべきだと考える。
- ・ マップの作成は、8月～10月の実施時期に合わせてマップを配布すると言うことであれば、少なくとも7/10頃までにはマップの作成をしておくべきである。
- ・ アンケート調査については、8月～10月の実施日当日にアンケートを配布するので、アンケートの作成は4月頃から始めなければいけない。それで、8月～10月に配布開始をして、11月に結果をまとめる。
- ・ それから「広報」だが、8月から実施する事になれば、7月の広報に掲載する必要がある。そうなると、6/5には原稿を作成しないと間に合わない。
- ・ それから、準備する物として、イス・テーブル等は7月で間に合うが、売り込みチラシやのぼり旗については5月頃から準備を始めるべき。
- ・ 以上の説明のとおり工程を作成している。

(資料 2-A-2 説明)

- ・ つづいて「資料 2-A-2」の「おおつきコンシェルジュ事業」である。
- ・ 「事業の目的」としては、以前はまちのコンシェルジュや、やまのコンシェルジュと分けて書いてあったが、これを1つにまとめた。
- ・ それから、将来の方向性を探るという事も目的とした。
- ・ それから、「事業責任者」「対象」「期間」「実施場所」については、若干追加した部分がある。
- ・ 「事業責任者」については、以前は「主体」となっていたところを修正した。
- ・ 「対象」としては、来街者50%、市民50%。
- ・ 「期間」としては、8月～10月。
- ・ 「実施場所」としては、大月駅前広場周辺と商店街となっている。
- ・ また、「事業の意義」を追加した。
- ・ 大月駅前には現在完成を目指して整備中であり、本事業が完成後における駅前広場の賑わいを創出する手段、また来訪者に大月をより多く知ってもらうための手段として本事業を実施する意義は高い。という事を追加してある。
- ・ 「準備作業の概要」についても追加されている。
- ・ 1番として、事業の確認だが、実施する事業内容、日時、参加の条件等の確認と作業担当者を決定する。
- ・ 2番として、質問事項調査。駅周辺の一般事業者や交通事業者等より、どの様な問い合わせがあったかの調査を行い、Q&A作成の資料とする。
- ・ 3番として、Q&Aの作成。質問事項調査の結果を受けて、Q&Aを作成する。

- ・ 4 番として、街歩き・山歩きマップの作成。マップは全事業共通の地図を用意し、Q&Aから得られた情報をもとに地図に掲載する情報の収集整理を行う。
- ・ 5 番のアンケート調査。アンケート調査を実施するための要員の確保と、調査実施時の留意事項等の説明を行う。
- ・ 「評価項目」の 1 番は、コンシェルジュを利用した人数の調査で、2 番は、コンシェルジュとして参加した市民の意識調査である。
- ・ これは、必要性を理解してもらえたかという調査である。
- ・ 次のページの工程表だが、先程と同じように 8 月～10 月にかけて、実施をするとすると、Q&A の冊子を 6 月頃には配布して、それを勉強してもらい、8 月からの実施に間に合わせるという事にする。
- ・ そうなると、3 月頃から Q&A は作成を始めないといけない。
- ・ そのためには質問等の調査を 2 月頃には実施させたい。
- ・ という事で、駅前の交通事業者、バス・タクシー・鉄道関係の事業者に、本日アンケート用紙を配布した。
- ・ 2 月末までに「どのような質問があったか?」「それに対してどう答えたのか」という事を回答してもらえよう、既にお願ひしてある。
- ・ 街歩きのマップについては、基本的には各事業共通という事で、8 月にマップを配布するとなると、7/10 頃までにはマップを作成しておかなければならない。
- ・ それから、アンケート関係は、8 月～10 月にかけての実施時期にアンケートを配布するというのであれば、4 月からアンケートの作成を始めて、8 月～10 月に配布をし、その結果を 11 月にとりまとめる、というスケジュールとなる。
- ・ 広報に関しても先程と同じで、8 月から事業を実施すると言うことであれば、7 月の広報に掲載する必要がある。とすると、6/5 までに原稿を刷る必要がある。
- ・ 以上の内容にあわせてスケジュールを作っている。
- ・ 「駅前を中心とした賑わいづくり」としては、この 2 つになる。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ A 部会の方の 2 事業についての実施計画案のご説明いただいた。
- ・ 今の説明であったように、一部、街歩きマップ等については、B 事業の B-1・B-2 事業とも関連するので、関連する事業内容については、その都度ご意見いただければと思う。
- ・ それから、一通り A-1～B-3 までの事業の説明をいただいて、最後に 5 つの事業についての関連性を含めて、まとめた段階でのご意見も頂ければと思っておりますので、それは最後の方に時間をとりたいと思う。
- ・ まず、1 つずつ、今の説明についてのご意見やご質問をしていただければと思う。
- ・ まず、「A-1」の「駅前夕市事業」について、ご質問やご指摘・ご意見を頂ければと思う。
- ・ これまでやってこられた「夕やけ市場」という内容の中身を充実させるために、飲食物の販売、グルメフェアを新たな事業内容に加えて、さらに魅力的な夕市事業にし、それを 8 月～10 月のあいだ 3 ヶ月間、土曜日の午後 2 時～5 時の間、駅前広場の一部を使って行いたいということが主な内容である。

- ・ ご説明を聞いて、もう少し事業内容や準備作業で、こういった事が必要じゃないか、とかいう事でも結構なので、お気づきの点があれば、おっしゃっていただきたい。
- ・ 一つ、重要な準備作業の中で、準備作業の概要のところの(リスト)3番・4番あたりだが、まず、3番に交通対策という事があるが、これは駅前広場の歩道及び一部車道を利用するというので、道路の占有許可を取る必要があるのと、一部通行規制措置が必要になってくると考えられている。
- ・ このあたり、関係の道路管理者あるいは交通管理者との協議し、調整をするという事が、準備段階では必要な検討項目になっている。
- ・ それから、交通問題に関わる部分では、4番目に駐車場対策というのがある。
- ・ ここには参加者規模を確認の上、との記載があるが、この参加者というのは一般の買い物に来られている方を指すのではなく、出店者という意味で参加者ということだと考える。
- ・ また、評価項目で出店者数や出店者という言葉が使われているが、実施計画書の中身は参加者と来場者という事で区別されている。この言葉の使い方も統一した方がいいかと思う。
- ・ 参加者というのは紛らわしいかもしれないので、出店者という風に統一した方が良くかと思う。
- ・ そうなると、夕市事業での野菜等の販売をする出店事業者及び周辺飲食店の加工済み食品の販売をするための飲食店、これが出店者に入ってくる。それから、グルメフェアに参加する店舗もあると思うので、これらについても出店者という扱いになるかと思う。
- ・ そういった意味では、厳密に言うと参加者の募集というのは出店者の募集になるが、夕市に参加する事業者・市民も出店者になり、グルメフェアに参加する出店者という事で、出店者の募集についてはこの中の文章で言うと、グルメフェアに関する出店者の募集という事が内容的に見受けられないので、書き加えておく必要があるかと思う。
- ・ そのあたりが気になった。
- ・ あと、夕市事業の中で検討されている加工済み食品の販売等の中身などは、出店される飲食店の工夫や取組みにゆだねられるところが大きいですが、そういった具体的な内容、グルメフェアに出す大月メニューの開発、そのメニューの中身、それからフェアの仕掛けとしてのコンペやグランプリ等のイベントを検討するという事になっている。
- ・ 準備の中で、それぞれ答えを出していかなければならないとの事だが、実施計画段階ではそういった事を検討するという事だけしか挙げられていないので、実際の作業の中身は、準備作業の中で詰めていくということになるかと思う。
- ・ そういった事を考え、工程表の部分で、最後の設定案の内容検討という事で、3月あたりから事業責任者を中心にどういった事業の内容にしていくか、あるいは、その内容を決定するための検討の手順という部分も3月の段階ではスタートさせたい。
- ・ 交通規制の関係は、関係機関への申請を23年度4月の段階で早々に行いたいと考えている。
- ・ また、ここで参加者募集というのは3月あたりに位置づけられているが、最初からどんな夕市事業でもグルメフェアでも出展したいと決めている方は、3月時点で募集してすぐに出てくるかもしれないが、それ以外で、内容や条件によっては参加意向を表明される方もいるかも知れないので、このあたりは中身の検討に合わせて募集をかけていかなければいけないと思う。3月だけで夕市・グルメフェア参加者募集と単純にいくのかという事が、少し懸念される。もう少し、このあたりは検討の流れに沿った形で参加者募集のタイミング

は検討する必要があると思う。

- ・私の方で気がついた点はこういったところだが、実施計画書案として、大きな修正点等を加えるべき部分があれば、この段階でご指摘していただいた方がいいと思うので、大事な点についてのご指摘をしていただければありがたい。
- ・交通規制の関係、警察とか道路の関係はよろしいか。こういった実施計画の中では4月以降には規模、どのあたりを道路占有の申請をするか、当然、警察や道路管理者等との調整は大月市が行なう事だと思うが、そういうスケジュールでよろしいか。

【事務局】

- ・はい。

【委員長】

- ・「A-1」事業についての実施計画案については、他にはよろしいか？

【委員】

- ・特になし。

【委員長】

- ・それから、「A-2」大月コンシェルジュ事業の実施計画書の説明があった。
- ・こちらは、コンシェルジュ、街の事について、おもてなしのホスピタリティというか、そういった優しいおもてなしの仕方で、なんでも大月に関わる問い合わせや相談について、皆が街の案内人になる形でやるということで、ホテル等ではコンシェルジュのデスクがロビーのフロントとは別のところであって、旅行や滞在に関する細かなサービスをしているというような事が見受けられるが、それを街ぐるみで来街者に対してやっていくという事で、街のイメージの向上に努めるという事、それから、それを通じて市民1人1人が大月市についての愛着とか誇りを持っていただくという事にもなるかと思う。
- ・結果として、賑わいへ貢献する部分が大きいと思う。
- ・そのために、当初は街についての話と、大月の周辺にある山への案内についての2つの内容を分けて考えていたのだが、基本的には1つのメニューの中でまちのコンシェルジュとやまのコンシェルジュという形で表現している。
- ・事業内容は、1番がまちのコンシェルジュ、2番がやまのコンシェルジュ。また、まちの方はQ&Aの冊子をあらかじめ作って市民に配布しておき、市民の1人1人の方が、コンシェルジュになった形で情報を提供できるように、そのガイドブックを示すためのQ&Aをつくる事が大きな内容となっている。
- ・このようなことはすぐには上手く出来るものではなく、Q&Aは更新していかなければならない。また、1人1人にどんな情報をどんな形で伝えれば良いか、という事がわかるように、持続的にするための勉強会や人材育成の方も検討することとなっている。
- ・コンシェルジュサービスというのは利用者ニーズとの100%との整合性みたいなものを求められるレベルまで一挙にはいかないので、まちのコンシェルジュは1人1人の人が最

後にはそうなれるように進んでいけるよう、お願いしたい。

- ・一方、やまのコンシェルジュの方は、山の事を熟知されている人がきちっとした案内をしないといけないので、市の観光ボランティアに登録されている方の中で、周囲の山々の事を良くご存知の人に案内役になっていただくと言う事、そういったやまのコンシェルジュ事業の充実化という事を、この社会実験の中で検討していくという事になるかと思う。
- ・そういう意味では、主としてまちのコンシェルジュの方で新しく Q&A を作らなければならないので、それを作成するという事が準備段階としてある。それから、実際に街歩きや山歩きのマップを来街者にとっての利便性を図ると言う意味でマップの作成作業がある。さらに、作成したマップあるいはコンシェルジュに対して、人々がどういう評価をしているかをアンケート調査で把握するための調査票の設計・実施というのが内容となっている。
- ・最後に工程表だが、これについては先行的な準備として Q&A を交通事業者や一般事業者の方に問い合わせて、これまでにどんな質問やどんな問い合わせがあったか調査し、その質問と、それに対応する妥当な回答を Q&A の形にして、それらを冊子にとりまとめた物を 8 月～10 月の実施する以前に 6 月あたりで市民の皆さんに配れるように準備を進めたい。
- ・それで、市民が総動員の形でコンシェルジュ事業の担い手になっていただくというのが、この事業の内容になっている。
- ・これについてのご意見とかご指摘があればお願いしたい。
- ・おそらく、この Q&A は 3 月から始めていくが、3 ヶ月間の間で、6 月くらいに配布するところまで行きつくことが出来るかどうか、一番のポイントだと思う。
- ・最初の年度だけで完成度の高い Q&A に作り上げるという事はなかなか難しく、繰り返しアップデート、良くしていきながらグレードアップしていった充実させるとともに、1 人 1 人の市民がコンシェルジュとしての意識がどう高まっていくか、経験していただくかということが大事だと思う。
- ・また、どう持続的な取り組みとして行っていくのかという事を、実験を通じて考えるということだと思う。なかなか成果がぱっと出てくるような事業ではないので、お金はそんなにかからない事業だとは思いますが、少し地味でも非常に意義がある事業かとは思う。
- ・それでは、また後ほどご意見いただくとして、ひとまず A-1、A-2 の事業についての意見とさせていただきます。
- ・それでは、また事務局の方をお願いするが、B 部会の方から出されている 3 つの事業の実施計画案のご説明をお願いしたい。

【事務局】

- ・ 部会長代理の小俣さんから説明をお願いしたい。

【委員長】

- ・ わかりました。それでは、小俣さんに説明をお願いしたい。

【委員】(B 部会 部会長代理)

- ・ 大月商店街の小俣です。部会長が欠席という事で、私から説明させていただきます。
- ・ 昨年、12 月 3 日にこの委員会で説明・提案をした事だが、そこで説明した内容は割愛させて

いただき、主に変更した点、文言の変更等を説明させていただきたいと思う。

(資料 2-B-1 説明)

- ・ 「B-1」のおもてなしストリート事業だが、「事業の目的」は前回の委員会で説明したように、特に全体の賑わいづくりのコンセプトである「おもてなしマインド」という事を浸透させると言うことだと思う。
- ・ 「事業の意義」を以下のように追加した。
大月駅周辺商店街が協力して、来街者に対しいろいろな形で「おもてなし」をすることは、来街者を温かく迎える地域密着型の商店街へと再生させる取組みとして意義がある。これにより、「おもてなしマインド」をより浸透させるという事が最大の事業だと思っている。
- ・ 「事業の内容」もほぼ前回の委員会での内容と同じだが、おもてなしマインドの作戦事業、①「おもてなしステッカー」の作成・掲示、②「街めぐり案内」の実施、これは同様である。そして、2の「おもてなしベンチ」設置事業だが、これにいて少し内容を掘り下げた部分を説明させていただく。
- ・ 変更点の第1点目は、1番目の●の部分、前回では30～50という提示であったが、30台という事で、こちらに載せてある。先日、大雑把に歩いて事務局とも設置場所を調査した中では30台はちょっと厳しいかなと言うところと、30数台くらい、40台近くあると思っている。
- ・ 第2点目として、●の3つ目の中にベンチには月に関連したレリーフとあるが、これも前回西井委員長から指摘があったように、多くの市民の参加という事が準備段階から必要ではないかという事も含めて、このベンチのレリーフは公募して、決定したらどうかと思う。
- ・ 中高校生、あるいは美術関係者にデザインの公募をして、もちろん全体的に市民に公募するが、そしてこのデザインのレリーフを版画版で彫っていくか、あるいはレーザー等で彫りこめないかということも、検討していこうと考えている。
- ・ もし、公募した物で採用されなかったものについては、まち宿り等で掲示したらどうかと考える。
- ・ 「事業の内容」として、新たに「街・商い おもてなし委員会」の設置事業を追加した。
- ・ これは、主に商店街の「おかみさん会」を中心として、委員会を立ち上げ、女性の視点から「おもてなし」とは何か、という事を考えていく、また実践していくためにどんなことが必要なのかということをお互いの委員会で提案していったらどうかと思っている。
- ・ 「準備作業の概要」については、実施する項目を並べた形になっているが、主にこの中で、大月商商店街協同組合加盟店への参加要請だが、これについては全店参加ということの基本に、「おもてなし」の企画に全員参加していただくという事を挙げている。そして、「おもてなしマインド」の浸透を組合員に図って行きたいと思っている。
- ・ あとの項目は、ほぼ前回までに説明した取り組みである。
- ・ そして、前回も説明したが、商店街では既に「おもてなし」については実行に移っているところがあり、中心地の賑わい作成、あるいは花いっぱい運動等の美化関係、あるいは笑顔で挨拶しようとか、そういった事をも継続して積極的に呼びかけている。
- ・ 工程表については、3つの案を全て統一した形で事務局より説明をお願いしたい。

(資料 2-B-2 説明)

- ・ 「B-2」 街なか魅力発見事業(回遊性創出事業)について説明させていただく。
これも一部文言の変更があるので、説明する。
- ・ 「事業の目的」として、市民及び登山客・ハイキング客を商店街(街なか)にいかに誘導するかという事を考えていきたい。
そのために、商店街と観光スポットの関連性・融合性を高める仕掛けづくりとして、どのように回遊性を創出していけるかという事を検討したい。
- ・ そして、当初から出ていたことだが、賑わいづくりのコンセプトの一つとして、大きなツキを呼ぶ街“大月”(ラッキーシティ大月)を対外的にも告知していきたいと思う。
- ・ 「事業の意義」も追加してある。街なかの埋もれた商品・商店や新しい観光スポットを紹介することは、来街者や市民に対するサービスの向上を図れるとともに、まちの魅力を広く伝える事が出来る。
- ・ 「事業内容」、ここも一部順番の入替・文言の変更をしているので説明する。
1 番目の埋もれた資源の掘り起こしと新商品の開発。
①話題のメニューや埋もれている大月商品・商店を掘起す。②大月の見どころや、史跡、富士山ビューポイントの調査を行う。③“大月”にちなんだ商品の開発・制作を行う。
- ・ この、“大月”にちなんだ商品の開発・制作については既に組合員には通達をして、着手している商店も実際に出ている。「A-1」であった大月メニュー等を含めて、商品の開発をして、積極的にPRをしていきたいと考えている。
- ・ 特に(リスト)3 番目の商店街と観光スポットとの関連付けだが、観光スポット、あるいはパワースポットとか、そういった場所と商店街をどのように関連付けていくかという事も事業では深く掘り下げていかなければならないと思う。
- ・ 商店街と観光スポットとの関連付けを検討し、観光スポットと連携された商店街を目指す。商店街の散策ルートと観光スポットを組み合わせたルートを検討し、それぞれのルートの楽しみ方、見どころ等を紹介する。
- ・ この関連付けを行うことによって回遊性、あるいは街なかの魅力発見を行っていければと思うし、どのようにして回遊性を図るか、どのような内容で関連付けていくかといった検討を商店街でもしていきたいと考えている。
- ・ それと、(リスト)4 番目の街なか散策マップの作成。このマップについては、前回の作業部会でも出ていたが、どうしてそこへ行くのか、行きたいのかというストーリーをマップに載せる事、またデザインもセンスのいいデザイナーへ依頼しなければ、ただの地図を作っただけではいけないと思っている。
- ・ (リスト)5 番も前回の説明通りだが、案内板・誘導標識の設置。
案内板というのはパワースポット・観光スポット等の、そこでの説明する案内板という事で、誘導標識は、そこへ行くための案内・道標的なものをご理解いただきたい。
- ・ それと、6 番目の調査隊、これも前回の説明通りだが、他の事業との関連性も含めて、アンケート調査的な形でどのように行うか、ということも今後検討が必要かと思っている。
- ・ 「準備作業の概要」については、特にこの中でマップは全事業共通という事で、「A-2」のコンシェルジュ事業とか「B-1」のおもてなしストリート事業等との関係調査が必要だと思う。
- ・ 街なかの魅力をこういう形でどのように告知して行くか、あるいは楽しんでマップを持って

散策していくかという事を検討していかなければいけないと思う。

- ・ 「達成目標」「評価項目」「作成資料」は前回と同様となる。また、工程表については、事務局から説明をお願いしたい。

(資料 2-B-3 説明)

- ・ 「B-3」 “大ツキ” 軽トラック市事業だが、「事業の目的」として、新たに追加した項目を説明する。
- ・ 4 番目の●の項目だが、「軽トラック市」に来た人と商店が交流することにより、以後の集客・販売促進に繋げ、商店街や中心市街地の活性化を図る。
- ・ 次の●は、「軽トラック市事業」が商店街の活性化にフィードバックできるか、事業を通して「大ツキ” 軽トラック市” 事業の効果や将来の方向性を探る、ということである。
- ・ 「事業の意義」も追加した。機動性を生かした「軽トラック市」の開催は、商店街再生の手掛かりを得る手段として実施する意義は大きい。また、商店街でのイベントが増えることは利用者・事業者双方にとって交流の機会が増えることであり、商店街と地域住民の新たな交流機会の増加として意義はある。
- ・ 「事業内容」だが、特にこの中で変更等しているところは、開催期間で、平成 23 年 9 月・10 月の 2 回とし、国道 20 号及び市道で各 1 回実施し、集客及び出店の状況を調べる。実施場所及び時期は関係機関と協議を継続しながら進めるということになっている。
- ・ この関連、この件については、また事務局から説明があるかと思う。
- ・ あと、3 番目の運営組織については、前回と同じで 5 項目だが、前は項目のみであったものに、内容も追加した。
- ・ つづいて、4 番目は、軽トラック市に来た人を、いかに商店街個店に誘導するかを検討する。これは、非常に大きな重要な事であると思うし、当初からここがどう出来るかがポイントと作業部会でも検討していた。
- ・ 個店への誘導の手法・イベントを商店街の組合としても、あるいは個店としても検討会をもって、検討したいと思っている。
- ・ 「準備作業の概要」だが、この事業を行うにあたって、交通に関連する運営者、あるいはイベント関連のお手伝いを含めてボランティアが必要かと思っているので、9 番目に運営ボランティアの募集を追加した。これは夏の「かがり火祭」のボランティア募集でかなり多く 200 名前後のボランティアの 募集をし、お願いをしている経緯もあり、実績もあるので、その程度のボランティア集めたいと考えている。
- ・ 「達成目標」については、前回と同様である。
- ・ 「評価項目」については、1 番を追加したが、商店街への集客、先ほど説明をしたとおり、どのようにして個店へ誘導するかという事で、個店への集客者数とその売り上げを評価項目として追加している。どれだけ商店街へ足を運んでいただいたか、どれだけ商店街が頑張ったかということ、打ち出していけるかを検討して行きたいと考えている。
- ・ 他の「おもてなしストリート事業」なども関連して、来た方にいかに素晴らしい気持ちをもって対応をしていくか、また、駅前の「夕市事業」との関連性も、どのようにしていくかということもあるかと思う。
- ・ そして、全体的に「軽トラ市」を通して、どのように地域住民との交流・地域コミュニティ

を強くさせていくことができるか、ということが大きな事と思っているし、人と街、あるいは商店とのつながりをどのように強くしていくかということが、この事業の中心的な事になっていくかと思っている。

- ・ その結果として、街の賑わいづくりができて行くのではないかと考えており、イベントも来街者の発見にも繋がっていけばいいと思う。
- ・ そして、この全体的な事業を通じて、商店街にいると楽しいね、いい事ありそうだね、いつも何かやっているね、等々、ときめきのある商店街になればいいと考えている。
- ・ 現時点で、最大限に考えた企画書を提出させていただいているが、まだまだ準備の方もあると思うが、検討を重ねて行きたいと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ B 部会の方で事業の責任者としてもお願いしている小俣さんから、3 事業についての実施計画書、前回の説明していただいた部分の変更点を中心に、もう一度実施計画案の説明をしていただいた。
- ・ 「B-1」は、おもてなしストリート事業ということで、「おもてなしマインド」をいかに商店街、全店参加が基本的には目標だという事で、ステッカーを貼りながら、地域密着型の商店街へ再生して行くという事が目的となっている。
- ・ 実際、色々な「おもてなしマインド」の表現という形での取り組み、それからフィジカルな事業としては、地域の手作りの「おもてなしベンチ」を設置したいという事で、設置台数約 30 台になる見込み、また設置場所については道路管理者等の設置許可を得た形で設置場所の選定を行うということで、あとはベンチのデザイン等についても市民参画型でひとつのイベントとしてやっていく。
- ・ それから、「おもてなしマインド」のひとつの別形態として、女性の視点からの「おもてなし委員会」というものも開いて、その中で色々な取り組みについて検討していく。
- ・ 最後は、そういった事業についてのアンケートを実施して、皆の意見を聞きながら、次の取り組みへ参考にしていきたい、といった事業だと思う。
この「B-1」事業について、ご意見・ご指摘はあるか。

【委員】

- ・ 特になし。

【委員長】

- ・ 8 月～10 月で、例えばベンチ等を設置するとなると、基本的には他の事業が 8 月～10 月という時期が多いが、ベンチの製作が 7 月として、設置はいつになるか。

【事務局】

- ・ 工程表に入れてないが、8 月上旬を予定している。

【委員長】

- ・ わかりました。
- ・ それでは、8月上旬を目標にして、工程表ではそこから繰り下がった形で、デザイン・レリーフとかベンチの製作が予定されているという事で、公募が5月という事になる。
- ・ そうすると、どういう位置づけでこういった「おもてなしベンチ」を考えているか、そしてレリーフのデザイン募集をどういう形で行うか、という事もあるので、この「おもてなし事業」の事業内容については、もう少し早い段階で全体の中身、事業の確認をしておく必要があると思う。
- ・ 質問は、よろしいか。

【委員】

- ・ マップの件で、全事業共通したマップを作るということになっているが、街歩きの部分と山歩きというのはひとつの地図で作れるものなのか。山はあちこちにあるが、市街地を中心として、ひとつのマップに全部納めようとすると、地図が大きくなる。すると、商店街や身近なところの詳しい説明などが書きづらくなると思うが、どういうマップを想定しているのか。

【委員長】

- ・ マップの話は、他の事業も全部関連するという事で、例えば「街なか散策マップ」、商店街の中、今の「B-1」だと、「街めぐりマップ」という言葉が使われたり、「A-1」の方では、また違った形のマップがあり、「まちのコンシェルジュ」の中のマップという事もある。
- ・ その話の中では、どの事業が一番まとめ役になってあたるのか、というのをまず決めた上で、その中で検討する必要があると考えられるが、今ご指摘があったのは、範囲をどういう風にするのか、考え方、ということか。

【委員】

- ・ 街歩きと山というのを一つにできるのか、というのがわからないので、それを知りたい。

【委員長】

- ・ それでは、小俣さんお願いします。

【委員】(B部会 部会長代理)

- ・ この事業は、中心市街地の賑わいづくりという位置づけだと思うので、これまで検討して来た中では、中心市街地、大月の街なかを中心としたマップを作成するという考え方である。
- ・ 「A-1」コンシェルジュ事業の「山のコンシェルジュ」という表現があるが、これはあくまでも山に行く人の問い合わせ、あるいは教えてもらいたいということがあった場合、その説明をするという事であって、山の案内までするマップまでもっていくという事ではない。

【委員長】

- ・ 当然、各事業で守備範囲が違うので、マップといったときに、例えば2種類作って、街なか用と周辺の山々・観光資源も含めた街なか以外のマップを2種類作るという事にして、そ

それぞれ必要な情報をそれぞれのマップに載せていくというやり方がある。

- それを、1セットにして、山へ行く人も帰るまでの待ち時間に街なかマップがあってもより良いと思う。
- マップとしては2種類だが、渡される側から見ると1セットで頂けるような取り組みもありかと思う。
- そのあたりは各事業で考えられているマップのイメージを、もう少し詰めた段階で1セットにした方がいいのか、あるいはそれぞれ配布する人も違うだろうという事で、独立にしていくべきだという話も出てくるかもしれないので、今は実施計画段階だが、準備作業段階で、最終的にマップについての調整をする作業が必要だと思う。
- それぞれの工程表を見ると、マップは8~10月の実験が実施される前までに作らないといけず、印刷とかの関係があるので、7月には出来ないといけない。
- そうすると、新年度を迎えて4~6月の間でマップ作り、何を載せるかという意味で、それぞれ検討をされるかと思うが、それを中間段階くらいで最終的なマップの作り方を、関係する事業間で調整するという形をとる方が現実的だと思う。
- 検討委員会としてはそれぞれの実施計画案を認めた上で、マップに関しては事業間の調整をするという事で条件を付けておきたいと思う。
- あとは事務局の方で、検討委員会でそういう方針になっているということで、どの段階で調整するのかというスケジュールを検討していただければと思う。
- そういった形で、他の関連事業との調整が必要な作業も中にはあるので、実施計画案の中で横断計画的に考えていかなければならない部分は実施作業が入った段階でまた考えていただくという事になる。
- 「B-2」の方、少し話が出たが、「街なか魅力発見事業」では、少し出てきた「街なか散策マップ」を作るということ、埋もれた資源や隠れた見どころを発見していき、それを来街者に対してPRしていく。
- そして商店街とのとりくみという位置づけでは、そうした観光スポットから商店街の方へ、どう人々を誘導するかという部分がポイントになって来るので、それを「街なか散策マップ」や案内板・誘導標識という事の設置を検討する中で考えていきたいという事業である。
- 検討していく中で、私が少し感じたのは、新しい発見、資源の掘り起こし、隠れた見どころ等の話の中で、特に新商品の開発という事は、各個店毎の取り組みとして行う話と、街なか魅力発見事業としての皆が共同で商品の開発やキャンペーンやPRをしていこうという事業としての取り組み、そのあたりを実際どのように上手く、参画された商店街の中で議論が出来るのかなという事が、実際にやると難しい面が出てくると思う。
- 皆が協力して考えていける環境作り、また、いきなりいい商品の開発や提案が成果として得られるというところは、あまり欲張らず、むしろこういった取り組みを上手く継続して個店個店の努力だけでは追いつかない部分を商店街としての取り組みを継続させる、そういう組織や体制を社会実験を通じて、是非作っていただければ、今回いい物が見つけれなくても、また継続して検討していけるという事になるかと思う。
- 事業内容としてはこれで結構だが、特に成果の評価とか達成目標といった部分、例えば、目玉となる、観光スポットの発掘と新商品開発を実現するというところまでいくと、なかなかハードルが高いという感じがする。

- ・むしろ、そういった取り組みをする体制を作る事を最小限の目標にしていってどうかと思う。
- ・社会実験だから、結果は結果として達成目標は達成できませんでした、という事で終わるが、そのあとどうするのか、という話に繋げていければという風に思う。
- ・「B-2」については、さきほど意見が出た街なかへどう誘導するか、マップの作成等の案については商店街としての取り組みの中でこれから具体的に議論をしていただき、「賑わいづくり」を中心としているので、商店街との観光スポットとの関係をどういう風に上手く繋がられるか、ということだと思う。
- ・最後の「B-3」の軽トラック市の話ですが、これは色々な他の街でも取り組みがされている事例ではあるが、約 50 台の軽トラックを 20 号線の道路の部分で、実際には 9 月 10 月の 2 回、20 号線と市道の一部で各 1 回ずつ実施して、集客・出展状況を調べるといった形になっている。
- ・商店街としての取り組みとしては、色々な運営組織を組織していただいて、「軽トラック市」の運営・推進に関わる地域資源の発掘、それから主要環境の整備、集客のプロモーション、販売支援、共同事業といったものの取り組みをするということがメニューの中身になっている。
- ・結果として、どれだけの人が集まったかという事で、「軽トラック市」に来た人だけでなく、間接効果として、個店へどれぐらい集客性があつたのか、という事を評価しながら、今後の「軽トラック市」事業についての評価をしていく、といった内容になっている。
- ・これについて、ご意見・ご質問があればお願いしたい。

【委員】

- ・「軽トラック市」というのは、他でのやっているケースはあるが、もう少し歩行者天国という雰囲気のアピールの仕方があっていいという気がする。人を一時留めるが、いわゆる歩行者天国的な扱われ方、というアピールがされてないので、確かにこういう方が新しいのかもしれないが、この際に歩行者天国と言ったほうがみんなワイワイ出てきやすいイメージだと思うが、表現・使い方というのはどうか。

【委員長】

- ・「軽トラック市」事業を大月でもやってみようと考えられた中で、やはり他地域のところで成功している事例があるという事が一番大きな話としては出てきたという事か。
- ・今のご意見の中に歩行者、道路空間を開放して商店街をモール化した形で取り組む、というやり方でやられている地域もあるので、他の手法との違いといった部分で、どんなところにメリットを感じて「軽トラック市」を考えられているか、説明をお願いしたい。

【委員】(B 部会 部会長代理)

- ・今、話があったとおり、我々は 1 年半くらい前から賑わいづくりを検討していたなかで、指摘の通り、歩行者天国、ホコテンという事を全面に出すという事も意見として実際に出てきたが、軽トラといった語呂、特に大月市の中心的な商店街の甲州街道で軽トラの市場をする

という事の方がインパクトが強いと考えるため。

- ・ ただ、我々も、家族そろって歩行者天国で遊べて楽しむ、という位置づけは、当然考えている。

【委員長】

- ・ 実際、「軽トラック市」で物販されるものを目当てにたくさんの人の集客力が期待できるということが、歩行者天国よりも賑わいの規模が違うのではないかという事が見通しではないかと思う。
- ・ ただ、事業の目的が、基本的に商店街の活性化という事が最終的な落とし所だとすると、「軽トラック市」が目当てで来られたお客さんの中で、いかに商店街既存の個店へ足を運んでいただいて、ここにもこういうアイテムがあったのだということで、併せてその店にも寄る、あるいは飲食店にも寄られて、楽しんで帰っていただくという事に繋がっていかないと、「軽トラック市」の為に商店街が場所を開放したという事、そしてそれを出来るように環境整備を商店街はボランティア的にやったけれども、結果として商店街にはあまりお金が落ちない、買い物客がこちらに来ない、ということでは、真の意味で商店街再生や、賑わいが自分たちのビジネスにも反映したという話にはなかなかならないと思う。
- ・ その辺が実験を通じて、なにが上手くいったのか、なにが上手くは行かないのか、ということを理解して行く事も大事だと思う。

【委員】(B部会 部会長代理)

- ・ 先程の委員の方のご指摘の中で、確かに国道を止めている「かがり火祭」の時、阿波踊りを踊っているときもそうだが、あくまでもそこが市民の場所ではなく、踊る人や出演者の場所になっていて、市民が歩行者天国や国道を楽しめるということは、現在、大月では実際のところ無い。
- ・ よって、そういうところを売りに出したらどうか、ということだと思うが、我々もそういうところを前面に出して、ある程度告知をしていければとも思うし、先程の西井委員長のトラックの方だけ売り上げが上がり、商店街が閑散としていたということでは本末転倒な感じもするので、その辺は十分検討としていかなければいけないと思う。
- ・ とにかく、我々としたら、大月市ですごく楽しい場所が出来たな、国道で楽しめる所ができたという事、家族で楽しみにいけるという場所の提供、そこから、地域のコミュニティを強化していける、という事が出来ればと思っている。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ この件については、事務局の方との話の中で、やはり 20 号線の通行を遮断した形で行う事業のため、なかなか恒常的な形ですするというものが難しい状況が実際ある。
- ・ これは、あえて言えば社会実験として、一度やってみて色々な影響や状況、道路への影響も含めて検証した上で、今後の取り組み、あるいは事業が継続的に出来るかどうかという判断をするという事になっている。
- ・ そういう意味では 20 号線への影響も含めて、評価項目の中で見ていかなければいけない。
- ・ スケジュールや評価項目のところでは、イベントとしての評価が中心にかかっているが、実

作業は、こういった周辺への影響みたいな部分も検討する必要があるので、実施計画の中にもきっちり書いておかないと、今後の事業継続、今後はどういう形で進めるか、という話の時に検証資料を出せないという事になるので、ここは追加をお願いしたい。

- ・ よろしいでしょうか。

【委員】

- ・ 異議なし。

【委員長】

- ・ それでは、さきほどから他の事業との兼ね合いで出てきている、「街なかマップ」の話、繰り返しになるが、それぞれの事業毎に工程を進めていく中で、実際のマップを作る中間段階ぐらいの時期を事務局の方で判断していただき、調整会議みたいな形で、全体としてどんなマップにして考えるのか、別々にするのか、あるいは1セットにするのかも含めて、その調整・検討していくということにしたいと思う。
- ・ 他に全体を通じて、5つの事業に言い忘れたとか、こういうところも気を付けてほしい、という部分があれば、ご意見をお願いしたい。

【委員】(大月市 産業観光課)

- ・ 市の産業観光課です。産業観光課では既に取り組んでいる事業があり、先ほど委員長から横の連絡・連係をとってくれという事があったので、参考に、私どものやっている事業でこれと整合性がある、かかわりがあるものを紹介したい。
- ・ まず、マップについては、今、当然、大月の観光ガイドマップというのがあり、それは山から街から全部網羅したのがあり、それが参考になると思う。
- ・ 大月と上野原、それと山梨県、JRが入った、「8 駅トレッキング事業」というもので、今年度から3年間やるが、今年度、駅から駅へ帰ってくるトレッキングのコースが出る。たぶん、大月の駅も岩殿山あたりから周って、というコースが出るのと、街なかを散策するようなコースを考えているのが、これは3月中に出来上がる予定でいる。
- ・ それから、「おもてなしの心」という事が言われているが、こちらの方も大月の観光の方で考えて、まずは交通の事業者、それから商工会、それから商店街等で、「おもてなしの推進協議会」という、「おもてなしの心」を少し高めていただこうじゃないかというものを年度内に立ち上げたいと考えている。これも先程の商店街のおかみさん会の話と整合するので、私共も少し気を使ってやりたいと思っている。
- ・ それから、Q&A、まちのコンシェルジュ事業の話だと思うが、そちらの方も私どもの持っている資料が参考になるかと思うので、是非使っていただければと思う。
- ・ 以上を委員長が言った、横との連係の中に入れていただければと思う。

【委員長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 「大月ガイドマップ」「8 駅トレッキング事業」「おもてなしの推進協議会」、それから「Q&A」の4点である。

- ・ それぞれは、関連する事業との関係という意味では同じ話をそれぞれ別個にやる必要も無いと思うので、是非関係していただければと思う。
- ・ また、このスケジュール表は今日の段階では案となっているので、ここに事業の調整のような項目をひとつ挙げて、一回だけでなく、定期的に調整をする会を設けていただいて、その時に、その会ごとのテーマとして、例えばマップについての検討をしましょう、とか「A-1」「A-2」の事業の調整をしましょう、とかそういった形でやっていくのを工程表の中に組み込んでおいていただければやりやすいかと思う。
- ・ 今考えられているところ以外でも調整が必要なものも当然出てくるかと思うので、そういった形でやっていただきたい。
- ・ 他に全体の中で、補足的なものはあるか。

【委員】

- ・ 特になし。

【委員長】

- ・ この5つの実施計画案については、基本的には検討委員会としては認めていただいたということにする。
今日頂いた意見をそれぞれ反映した上で、それぞれの準備にかかっていたかどうかということにしたいと思う。
- ・ それから協議事項の最後にこの検討委員会の次年度の活動計画についてというものが「資料3」に出ているので、事務局の方から「資料3」についての説明をしていただきたい。

【事務局】

- ・ それでは、「資料3」、「平成23年度まちづくり推進検討委員会活動計画(案)」である。
- ・ 第1回の検討委員会を12月の中旬に予定している。
この時に今日の推進検討委員会の活動報告、および社会実験の報告を行う。
- ・ なぜ、12月になってしまうかという、事業の実施を8月～10月にかけて計画をしている。
- ・ また、11月にアンケート調査の結果をとりまとめると、どうしても12月の中旬になってしまうという事である。これは第1回の推進検討委員会だが、この時に「平成23年度の委員会活動計画(案)」の検討をする。
- ・ それから、街づくり推進検討委員会が平成23年度で終わるため、それを引き継いでもらう会という事で、仮称ではあるが、「まちづくり協議会」の設立を考えているので、この協議会の規約の草案を提示したいと思っている。
- ・ それから、第2回の検討委員会を2月の中旬。この時にまちづくり協議会の規約の承認をしていただきたい。また、推進検討委員会が終わりになってしまうので、このまちづくり推進検討委員会の活動報告をして、解散をするといったスケジュールを予定している。

【委員長】

- ・ 今年度もそうだが、23年度においても暮れが押し迫ってから行なって、年度末を迎えるという、同じパターンになっている。

- ・ したがって、今日お話しした 5 つの社会実験については、今日の実施計画書の承認を経た上で、工程どおり、8 月 9 月 10 月中心に行い、それぞれ評価やアンケート調査の結果のとりまとめをした上で、12 月の第 1 回で結果を報告するという形になる。
- ・ 実質、23 年度の委員会活動案については、どちらかというとなり形式的な議題で、社会実験の結果報告を踏まえた形で、事業の総括的な話と 24 年度以降のまちづくり協議会の規約の検討をする事が、23 年度委員会活動案そのものになろうかと思う。
- ・ 考え方としては、検討委員会は社会実験の完了をもって役目を終えて、次の「まちづくり協議会」を立ち上げた段階までで役目を閉じるという事で、第 2 回の検討委員会では、総括的な検討委員会の報告をして解散するという形になる。よろしいか。

【委員】

- ・ 異議なし。

【委員長】

- ・ それでは、23 年度はこういった形で行うという事をお願いしたい。
- ・ 協議事項は以上である。
- ・ その他の連絡事項ということで、事務局の方にマイクをお返しする。

4. その他連絡事項**【事務局】**

- ・ ありがとうございます。
- ・ 「その他の連絡事項」という事で、事務局の方からは特別ないが、委員さんから何かあればお願いしたい。
- ・ なければ、閉会の挨拶を平井副委員長お願いいたします。

5. 閉会の挨拶**【副委員長】**

- ・ 本日は大変貴重な時間を割いていただきました、長時間に渡り検討いただき、大変ありがとうございます。
- ・ 22 年度はこれをもって、検討委員会の皆さんに検討していただいた資料を基に、来年度に進んで行きたいと思う。どうか宜しくお願いします。大変ご苦勞様でございました。

【事務局】

- ・ どうもありがとうございました。